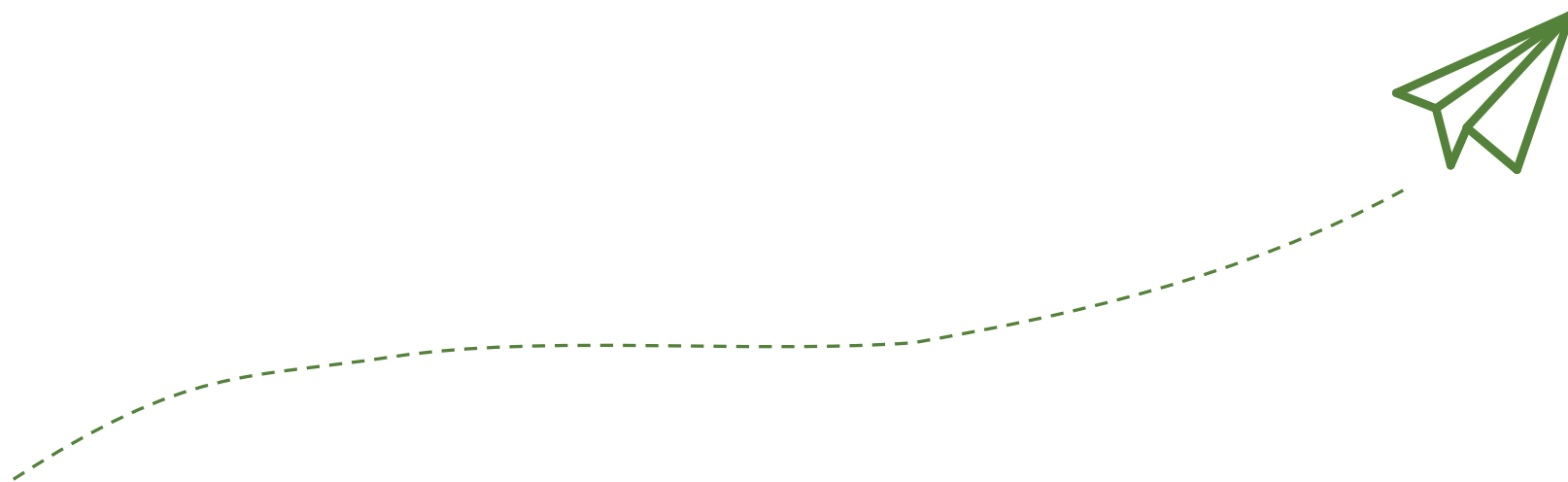


令和8年度(2026年度)

練馬区 当初予算案 記者発表資料





## 高齢者地域包括ケアシステムの深化・推進

新規  
・  
充実

### 地域包括支援センターの機能強化

### 身寄りのない高齢者等への支援の充実

### 認知症とともに安心して暮らせる地域を目指して

1 2,150千円（地域包括支援センター運営費）  
5 5,716千円（身寄りのない高齢者等への支援の充実）  
2 2,926千円（認知症高齢者等への支援）

地域包括ケアシステムの中核となる地域包括支援センター27か所体制を整えました。団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22年に向けて、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域包括ケアシステムを深化・推進していきます。

#### 1 地域包括支援センターの機能強化

- 団塊ジュニア世代が高齢者となる22年を見据え、増加する高齢者や介護家族等が気軽に相談できるよう、地域包括支援センターの機能を強化します。
- 遠方にいる家族や、聴覚障害のある方などの相談ニーズに対応できる体制を整えます。より身近で利用しやすい場所にセンターを設置します。



▲地域包括支援センターでの相談の様子

#### 2 身寄りのない高齢者等への支援の充実

- 22年には高齢者の2人に1人がひとり暮らし高齢者になると見込まれています。
- 頼れる身寄りのない高齢者等が増加する中、予め本人の意思を確認し、本人が希望する支援につなぐ取組などを、「ねりま架け橋プロジェクト」として開始します。



▲子ども向け認知症サポーター研修の様子

#### 3 認知症とともに安心して暮らせる地域を目指して

- 7年1月現在、何らかの認知症の症状がある高齢者は区内で約3.1万人と推計されています。認知症高齢者は、22年には約4.1万人に増加すると見込まれています。  
認知症は誰もがなり得るものであり、認知症であっても希望を持って日常生活を過ごせるよう、認知症のある方やその家族に寄り添い共に暮らせる地域づくりを目指します。
- 認知症になっても、住み慣れた地域で希望を持って暮らし続けるために、認知症のある方やその家族が、日常生活の困りごとや不安・葛藤を安心して相談できるよう、相談窓口の体制をさらに充実させます。

## 1 地域包括支援センターの機能強化

## (1) オンライン相談等の開始【新規】

窓口へ来所しなくても資料を画面で見ながらの説明等、対面に近い相談ができるオンライン相談を開始します。

窓口でのオンライン手話通訳サービスや、自宅から手話通訳コールセンターを通じた電話代理支援サービスを活用し、聴覚障害のある方の相談に柔軟に対応します。



## (2) 地域包括支援センターの移転

8年4月に第2育秀苑地域包括支援センターを小中一貫教育校（みらい青空学園）に併設する複合施設へ移転します。

10年に練馬デイサービスセンター内の練馬地域包括支援センターを厚生文化会館に移転するため、設計に着手します。

## 2 「ねりま架け橋プロジェクト～ひとりにしない～」を始動【新規】（P.30にも掲載）

## (1) 終活情報登録事業の開始

緊急連絡先や希望する医療行為などの情報を社会福祉協議会に無料で登録します。判断能力の低下や死亡時に、警察や病院、事前に指定した方からの照会を受け、社協が情報を開示します。

## (2) 終身サポート事業～そなえ・あんしん365～の開始

日常生活の見守りなどの生活支援、入院・入所時等の手続支援、死後事務支援をニーズに応じてパッケージで提供します。

社協では、十分な資力がない方でも支援を受けられるよう、サービス契約時の預託金を低廉（約30万円～※）にします。相談者の支援ニーズや資力に応じて同様のサービスを提供する民間事業者につながります。 ※葬儀・納骨・家財処分費を想定

## 3 認知症とともに安心して暮らせる地域を目指して

## (1) 寓話でひろがる認知症理解 ～忘れんぼうの森の時計～

区職員が認知症について子どもでもわかるよう、オリジナル寓話「忘れんぼうの森の時計」を作成しました。

この寓話は、認知症の「何もできなくなる」というイメージを、「周りのかかわり方で、できること・やりたいことの実現ができる」へと変えていくためのものです。

小学校・中学校での出前講座や子ども向け認知症サポーター養成講座などで、活用していきます。

認知症のある方やその家族とともに認知症パネル展や上映会、当事者による講演会などを開催します。

忘れんぼうの森に、時を刻む

古い時計がありました。

この時計は、時々時間を間違えたり、針が止まったりしました。



▲練馬区オリジナル寓話「忘れんぼうの森の時計」抜粋

## (2) 認知症なんでも相談の充実

認知症高齢者グループホームなどの、認知症に精通した職員が、認知症のある方やその家族の相談を受け、認知症なんでも窓口を設置しています。8年4月から、オンラインや夜間などの相談枠を拡充します。



問合せ

高齢者支援課長（事業1・3）  
福祉部管理課長（事業2）

☎5984-4619  
☎5984-4576

# 高齢者の生活を支える サービス提供体制と人材確保策の充実

新規  
・  
充実

特別養護老人ホームの大規模改修・改築費補助  
都市型軽費老人ホームの整備  
介護人材確保・育成の充実

585,850千円（特別養護老人ホームの大規模改修・改築費補助）  
152,840千円（都市型軽費老人ホームの整備）  
49,626千円（介護人材確保・育成の充実）

特別養護老人ホーム・都市型軽費老人ホーム・看護小規模多機能型居宅介護の施設数は、都内最多となっています。令和22年には区内で約1,800人の介護職員が更に必要になると見込まれています。区独自に練馬福祉人材育成・研修センターを設置して、区内事業者団体と連携しながら、介護人材の確保・育成・定着を支援する様々な事業に取り組んでいます。

## 1 特別養護老人ホームの大規模改修・改築費補助

- 介護施設の整備を着実に進めてきた結果、特別養護老人ホームは都内最多の37施設となり、入所待機の状況は大幅に改善しています。
- 一方で、開設から20年以上の特別養護老人ホームが増加し、老朽化への対応が求められています。将来にわたり安定的にサービスを提供していくため、区独自の新たな改修・改築に係る補助を実施します。

▼特別養護老人ホームの開設年数と大規模改修実施状況

30年以上 6施設	20年以上 10施設	10年以上 11施設	10年未満 10施設
--------------	---------------	---------------	---------------

20年以上経過した16施設のうち **8施設が改修未実施**

## 2 都市型軽費老人ホームの整備

- 都市型軽費老人ホームは、都内最多の17施設となっています。
- ひとり暮らし高齢者の増加に伴い、今後もニーズが高まると見込まれるため、引き続き整備を進めます。



◀改修前の特養



▶改修後の特養



▲光が丘福祉専門学校の授業の様子

## 3 介護人材確保・育成の充実

- 人材不足が特に深刻な訪問介護の担い手を確保・育成するため、7年度から介護職員初任者研修受講料助成を充実しました。また、新たに短時間勤務職員を雇用する訪問介護事業所を支援しています。
- 7年4月に開設した介護福祉士養成施設「光が丘福祉専門学校」では、引き続き、学校、区内事業所と連携し、学生の住まいと学費をサポートしながら、卒業後の区内での就職を促進します。
- 区内で介護職員として働く外国人向けに、介護福祉士の資格取得に向けた試験対策講座を、引き続き開催します。

## 1 特別養護老人ホームの大規模改修・改築費補助【新規】

## (1) 大規模改修費補助

施設の一部改修や付帯設備改修などに対し、東京都の補助に加え、1施設あたり最大6,000万円を補助します。

都補助（7年度）	区補助
最大9,536万円 補助基準額1億9,072万円 補助率1/2	最大6,000万円 または大規模改修費から都補助を控除した額の1/2のいずれか低い額

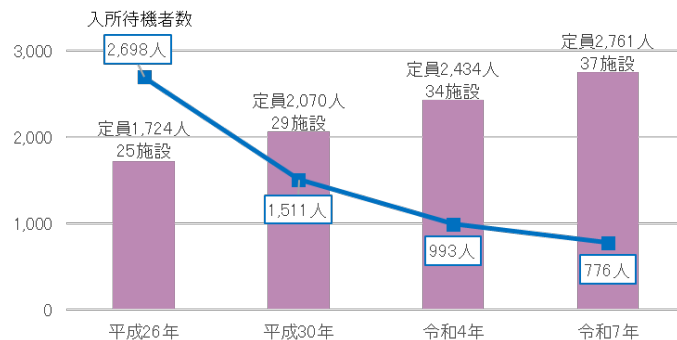
## (2) 改築費補助

既存施設を取り壊して行う施設整備費（移転改築を含む）に対し、東京都の補助に加え、1床あたり最大748万円を補助します。

区分	基準単価/1床	物価調整額/1床	合計/1床
法人所有地 区有地	210万円	252万円	462万円
定期借地	340万円	408万円	748万円

※都補助（7年度）…基準単価1床当たりユニット型600万円、従来型個室540万円、多床室486万円。物価調整額として1床当たりの補助基準額に1床当たりユニット型734万円、従来型個室661万円、多床室595万円を加算。

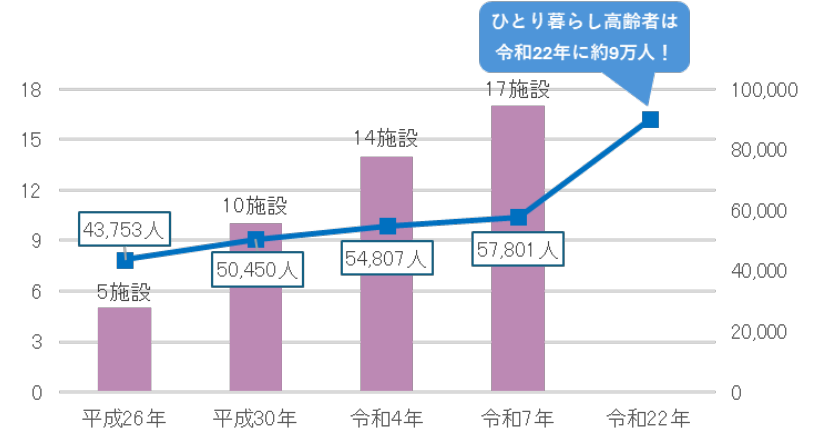
▼特別養護老人ホームの入所待機者数と定員数（施設数）



## 2 都市型軽費老人ホームの整備

新たに1施設(定員20人)の整備に着手し、2施設(定員40人)の整備事業者を公募します。

▼都市型軽費老人ホームの施設数とひとり暮らし高齢者の推移



## 3 介護人材確保・育成の充実

## (1) 「光が丘福祉専門学校」の学生への支援の充実

介護福祉士養成施設「光が丘福祉専門学校」では、一期生が国家資格の取得を目指しています。現在、二期生の入学選考を進めています。

二期生に対しても、都の修学資金貸付制度の活用や学生と区内事業所とのマッチングを支援し、運営法人が学生の宿舍を借り上げる経費の8分の7を補助します。

## (2) 訪問介護採用応援補助事業の充実

訪問介護事業所が都事業では対象とならない短時間勤務職員を雇用し、研修を受講させた場合、賃金や採用経費を区が負担しています。8年度は1事業所あたりの上限人数をなくすなど、多くの事業所が利用しやすくし、訪問ヘルパーの確保を支援します。

## 元気高齢者の活躍とフレイル予防の推進

充実

### 街かどケアカフェの増設

### 元気高齢者の活躍の場を拡大

### 元気なうちからフレイル予防

211,917千円（街かどケアカフェの増設）  
15,182千円（元気高齢者の活躍の場を拡大）  
26,203千円（元気なうちからフレイル予防）

高齢者の約8割は元気な高齢者です。いつまでも元気で孤立せずに暮らし続けるためには、人と人とのつながりが重要です。多世代の地域の方が集う、交流・相談・介護予防の場となる「街かどケアカフェ」を創設し、10年で区内各地に49か所開設しました。

#### 1 街かどケアカフェの増設

- 交流・相談・介護予防の場となる「街かどケアカフェ」は、年間でのべ約86,000人が来所する場に発展しています。
- 通いたくなる場を提供していくために、多様な団体と協働して、介護予防・健康づくりのための事業を充実していきます。

街かどケアカフェ年間来所人数(のべ)



▲大好評だったホテルカデンツァ東京での理学療法士による特別講座



▲食のほっとサロンの様子

#### 2 元気高齢者の活躍の場を拡大

- 区内の高齢者の約8割は要介護認定を受けていない元気高齢者であり、地域の担い手として、様々な場面での活躍が期待されています。意欲のある高齢者が働き続けられる場をさらに拡大します。

#### 3 元気なうちからフレイル予防

- 誰もが住み慣れた地域で、健康でいきいきと暮らし続けるためには、一人ひとりが元気なうちから自主的に健康づくりやフレイル予防に取り組めるよう、地域と一体になって支援することが重要です。
- 地域団体や理学療法士協会などと協働したフレイル予防の取組をさらに充実します。
- 多様な事業展開により、孤立しやすい傾向にある男性高齢者の参加を促進します。

## 1 街かどケアカフェの増設

### (1) 53か所へ増設！ 街かどケアカフェの増設

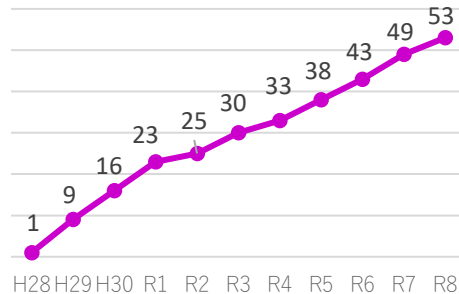


▲ボランティアグループによる絵本の読み聞かせ

令和8年度は常設型1か所、地域団体が運営するサロン型3か所を増設し、合計53か所となります。

また、9年度に新たに上石神井に開設する常設型街かどケアカフェの工事に着手します。

【街かどケアカフェ数の推移】



▼介護予防体操の様子



▼街かどケアカフェ所在地一覧



## 2 元気高齢者の活躍の場を拡大

元気高齢者が特別養護老人ホームなどで清掃等の業務を担い、介護職員の負担を軽減する「元気高齢者介護施設業務補助事業」を実施しています。対象施設を地域密着型サービスの看護小規模多機能型居宅介護などに拡大し、元気高齢者の活躍の場を広げます。

## 3 元気なうちからフレイル予防

### (1) フレイル予防アプリ「フィット&ゴー」リニューアル

3年間の開発が終了し、リニューアル版をリリースします。これまで、歩数や血圧等の結果からAIがフレイルリスクを判定し、健康行動を促すアドバイス機能等を追加してきました。

さらに家族や友人と歩数を確認し合える機能を追加し、見守りの輪を広げます。



デザイン一新！

### (2) 食のほっとサロンの拡大

高齢者の閉じこもり予防や地域での自立生活を支援する補助事業「食のほっとサロン」の実施場所を18か所から22か所に拡大します。NPOなどの地域団体が主体的に会食や口腔ケア講座などを行います。

### (3) フロ・マエ・フィットネスの拡大

公衆浴場の営業開始前に体操やレクリエーションを行うフレイル予防事業の実施場所を9か所から11か所に、開催回数を140回から166回に拡大します。運動後はゆっくり入浴を楽しめます。

▼フロ・マエ・フィットネスの様子



### (4) 理学療法士協会によるフレイル予防講座の充実

理学療法士を講師に招き、はつらつセンターや街かどケアカフェなどで年10回開催しています。8年度は世代を問わず参加できる特別講座を区民・交流ホール（Coconeriホール）で開催します。

問合せ

高齢者支援課長（事業1）

☎5984-4619

高齢社会対策課長（事業2、事業3）

☎5984-4583